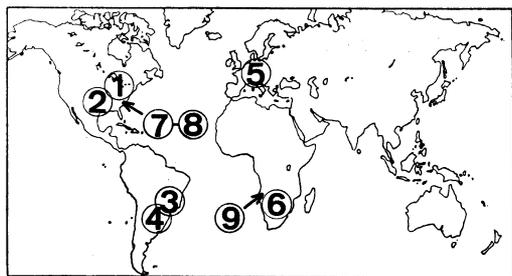


世界の異常天候とその影響評価 (13)

(Climate Impact Assessment, January, 1985)

(Climate Impact Assessment, February, 1985)



〔昭和60年1月〕

1. 合衆国東部——寒波

合衆国東部では、1月19～23日にかけて記録的な寒波が襲い、フロリダ州の野菜・柑橘類に被害を与え、少なくとも150人の死者を出した。フロリダ州の農作物の被害は10億ドル以上で、柑橘類栽培地帯を襲った凍害としては2番目のものであった。1月21日の朝、南東部の数都市で、ちょうど1年前の記録的寒波の記録を破り、それまでの最低気温を更新した。

記録更新地点：ノースカロライナ州アッシュビル（ -27°C ）、ジョージア州オーガスタ（ -19°C ）、フロリダ州デトナビーチ（ -9°C ）、ボルチモア（ワシントン空港）（ -21°C ）。

その前日には、シカゴで113年の中で最も低い気温を記録した（ -33°C ）。

2. 合衆国テキサス州——大雪

1月12～13日、暴風雪のためテキサス州各地で交通障害が発生した。サンアントニオの降雪量は過去100年間で最大の33cmだった。

3. ブラジル南東部——豪雨

ブラジル南東部の1月下旬の豪雨は、洪水や土砂崩れを引き起こし、約150人が死亡し、資産にもかなりの被害がでた。被害の中心はペロオリゾンテ付近で、1月20～26日の間に300mmの雨が降った。

1985年4月

4. ブラジル南部——干ばつ・高温

ブラジルの大豆生産地域であるリオグランズスルやパラーナの西部では、干ばつと高温が続いたため大豆の生育に被害を受けた。しかし、2月2～3日に降った雨のために、かなり持ち直した。ブラジルは世界第二の大豆輸出国である。

5. ヨーロッパ——低温

記録的な低温と降雪のため、ヨーロッパでは1月の第3週までで300人の死者を出した。フランスが最もひどく、 -23°C もの低温に見舞われた。1月6日ローマでは、ここ14年間ではじめて暴風雪となった。フランス地中海沿岸にも積雪があり、スペインでは農作物が凍害をうけた。

6. アフリカ南部——干ばつ

レソト、南アフリカ、ボツワナでは、干ばつのため食糧生産が3年連続して平年値を下まわりそうである。しかし、降水量は先きの2年間より好転しているため、食糧生産の見通しは改善されそうである。

(気候変動対策室 服部敦子)

〔昭和60年2月〕

7. 合衆国東部——地ふぶき

2月11～12日に合衆国中西部と南東部では、発達した低気圧がもたらした地ふぶきのため道路が閉鎖された。また、北東部では大雨が降って洪水が発生した。ノースカロライナ州では38センチ、ケンタッキー州では60センチに達する雪が降った。インディアナ州では、地ふぶきによって陸の孤島となった地域に、ヘリコプターで食糧を緊急空輸した。

8. 合衆国東部——高温

2月23～25日に合衆国の東海岸と中西部で記録的な高温となり、インディアナ州と他の2、3の州では融雪に

よる洪水が一層ひどくなった。2月23日にボルチモアの中心街で記録された 26°C という高温は、この日としては過去百年以上の期間での最高記録である。

9. アフリカ南部——少雨

アフリカ南部の数カ国では、今季は雨に恵まれたため5～6月の収穫期のあとの食糧供給は良くなる見込みである。しかし、南アフリカ共和国、ボツアナ、レソト、

アンゴラ、モザンビーク南部の1地方では少雨のため農業生産は平年を下回りそうである。

2月中旬にはモザンビークのマプト地方で洪水が発生した。この地方では以前の少雨の影響で生活用のトウモロコシが被害を受けている。

注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

(気候変動対策室 真野裕三)

月例会「南極圏の気象」第3回会合のお知らせ

テーマ「南極の雲と降水」

日時：昭和60年5月21日(火) 16:00～19:00

(春季大会の前日です)

場所：気象庁第1会議室

プログラム

1. 極域の雲と降水に関する研究の現状と問題点

菊地勝弘(北大・理)

2. POLEX-North 研究観測のレビュー

藤吉康志(北大・低温研)

3. 昭和基地における雲の特性

和田 誠(極地研)

4. 衛星から見た南極の雲

山内 恭(極地研)

連絡先 気象研究所 伊藤朋之(幹事)

Tel. 0298-51-7111 内線 606

日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第63巻 第1号 1985年2月

新田 勲・中込 縁・鈴木 靖・長谷川直之・門倉 昭：
FGGE年の北半球夏季における熱帯下部対流圏擾乱
の全球解析 第I部：擾乱の全球的特徴

加藤内蔵進：1979年5月後半に起こった中国大陸上の梅
雨前線帯の構造の急変について

松本誠一・岡村博文：台風8124号で観測された重力波に
ついて

藤部文昭：大気境界層の風の日変化に対する気圧傾度の
効果

蒲生 稔：筑波における混合層構造の季節変化

那須田 宏：高高度半透明雲の赤外灰色体射出率と可視
アルベド

井上豊志郎： $10\mu\text{m}$ 帯窓領域2チャンネルデータによる
半透明絹雲の温度および有効射出率の算定

横山辰夫・田中 浩・赤枝健治・大谷 健・吉澤宣之・
山中大学・三田昭吉・石坂 隆・小野 晃：融解層
を伴った層状性降水の微物理過程の富士山における
観測

太田幸雄・大喜多敏一・日下文博：ジアゾメタンによる
メチル化法を用いた大気中の硫酸粒子の測定

村上正隆・菊地勝弘・孫野長治：天然の雪結晶によるエ
ーロゾル除去作用に関する実験 第一部：電荷を持
たない雪結晶のミクロンおよびサブミクロン粒子に
対する捕捉率

村上正隆・菊地勝弘・孫野長治：天然の雪結晶によるエ
ーロゾル除去作用に関する実験 第二部：静止した
雪結晶に対する直径0.1ミクロンの粒子の付着率

要報と質疑

松尾敬世：日本付近の雲形別雲量の変動特性

小林愛樹智・林田佐智子・岡田菊夫・岩坂泰信：1983年

春に行なったレーザ・レーダによる黄砂の偏光特性
の測定